

内閣府 国際平和協力本部事務局主催
オンライン・シンポジウム

コロナ禍を受けた国際平和協力の 現状と今後の在り方

— 人間の安全保障の理念に基づく持続可能な国際社会の構築に向けて —

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大は、最も脆弱な立場に置かれた人々に最も深刻な影響が及んでおり、国連PKO等が展開する国際平和協力の現場も例外ではない。あらゆる社会において、個人の尊厳ある生存の重要性が再認識されつつも、特に先進国を中心とする“me-first approach (自国中心主義)”が指摘されているほか、グテーレス国連事務総長はSDGsの達成がより一層困難になっているとの認識も示している。

また、平和の持続 (Sustaining Peace) と持続可能な開発 (Sustainable Development) が表裏一体であることを踏まえ、国際平和協力が持続可能な世の中の実現にむけて果たすべき役割は大きいとも言われる。

今次シンポジウムでは、そうした状況の中で、明年にPKO法施行30周年を迎える我が国の観点から、人間の安全保障の理念に基づいた、誰一人も取り残さない持続可能な平和と安定の実現、そして持続可能な国際社会の構築に向け、国際平和協力の現状と今後の在り方について考察する。

開催日時：2021年 **3月15日** (月) **18時30分～20時**

開催形式：オンライン (参加無料)

使用言語：日本語

主催：内閣府 国際平和協力本部事務局



プログラム

18:30～18:40 開会挨拶：久島直人 内閣府 国際平和協力本部事務局長

18:40～19:10 基調講演：星野俊也 大阪大学教授・前国連大使

19:10～19:30 専門家によるプレゼンテーション (2名)

石川直己 国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS)
戦略計画ユニット及び教訓ユニット長

川崎真知子 国連事務局オペレーション支援局
メディカル・トレーニング・オフィサー (二等陸佐)

19:30～19:40 コメント：久島直人 内閣府 国際平和協力本部事務局長

19:40～20:00 質疑応答

登壇者の略歴

星野 俊也 ほしの としや

大阪大学教授・前国連大使

1959年、群馬県生まれ。上智大外国語学部卒。学術修士(東京大学)、国際公共政策博士(大阪大学)。在米日本大使館専門調査員、日本国際問題研究所主任研究員、プリンストン大学客員研究員などを経て、2003年より大阪大学大学院国際公共政策研究科教授に就任。その間、国際連合日本政府代表部大使・次席常駐代表(2017年8月～2020年8月)や国際連合日本政府代表部公使参事官(2006年8月～2008年8月)などを歴任。専門は国際政治、国連研究、人間の安全保障、平和構築。

石川 直己 いしかわ なおき

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) 官房長室、戦略計画ユニット、上席連絡調整官
(戦略計画ユニット及び教訓ユニット長)

1978年生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科を卒業後、東京大学大学院総合文化研究科に進学、国際社会科学(国際関係論)を専攻。2006年より、在ニューヨーク日本政府国際連合代表部に専門調査員(政務)として勤務。2009年より、JPO派遣制度を通じ、国連事務局平和維持活動(PKO)局に派遣される。JPO派遣期間終了後、引き続き同PKO局にてソマリア関連の業務を担当。2013年より、PKO局運用部事務次長補室に異動。2016年に、国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)に異動し、現在、同PKOミッションの統合的な戦略策定や予算枠組みの策定を担当。

川崎 真知子 かわさき まちこ

国連事務局オペレーション支援局メディカル・トレーニング・オフィサー (二等陸佐)

2020年8月より国連事務局オペレーション支援局で、メディカル・トレーニング・オフィサーとして勤務。岡山大学大学院修了後、1998年に陸上自衛隊入隊。以降、自衛隊中央病院、陸上幕僚監部衛生部、中央即応集団司令部民生協力課長、第10後方支援連隊衛生隊長、衛生学校教官等として勤務。2002年第1次東ティモール派遣施設群薬劑官として、2013年国連南スーダンミッション(UNMISS)に司令部兵站幕僚としてPKOに参加。

申込方法

受付締切：2021年3月12日(金)

参加ご希望の方は下記メールフォーム又はQRコードから、お申込みください。
本イベントは途中入退場可です。

メールフォーム <https://forms.gle/NCEFK1zTunTnHc4Y6>



お問い合わせ

内閣府 国際平和協力本部事務局企画係 TEL.03-3581-1967 <http://www.pko.go.jp>